

月刊
JMITU

テイクアウト



10月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部
セガ グループ分会 2019年発行

No.418

秋闘・年末一時金回答

一時金回答延期

秋闘・年末一時金要求について、SHD、SIC、SLSの3社から回答がありました。

「アルバイト、パートタイマーの時給を1500円以上にすることを。」

会社「職種によっては1500円を超えている方もいる。一律1500円という事は出来ない。その業務や地域の相場を見て決めている。」

「アルバイト、パートタイマー、派遣・請負社員を本人の希望があれば正社員にすること。」

会社「誰もが希望すればというわけにはいかない。正社員登用制度というものがあるので、その制度に沿って行う。」

「新人事制度の廃止。昇格の基

準を明確にし、社員が納得できる昇格制度にすること。」

会社「制度について会社としては、廃止にする気はない。問題があれば改善していく。昇格の定義があるので昇格基準は明確だ。」

「一般層及び高齢者再雇用者への目標管理シートを廃止すること。」

会社「高齢者再雇用の目標管理シートについては、上長との業務内容の確認ツールで査定をする為の物ではない。SHDでは今まで再雇用で査定をマイナスにした事はない。一般層の目標管理シートについては、確かに生産性が高いとはいえない。どのようにしたら良いか検討をしなければならぬ。」

「サイモス上に組合HPのリンクを貼り付けること。」

会社「現在会社のホームページを刷新しようとしている。リン

クは検討中」

会社「一時金回答については上期の決算みてからでないとも確な回答ができない。上期の状況と通期を見ながら決めた。」

会社「その他付帯要求については、検討していないわけではない。いろいろな角度で考えている。短時間フレックスについても導入に踏み切るまでいろいろ問題もあった。育児にばかり施策が打たれることで少数ではないか、子供のいない人達には何もないのかなどの意見もあった。」

組合「今回の災害、安否確認の問題などありましたが、災害についてどのように考えているのか。」

会社「今までのものは地震に対しての安否確認だった。今回台風19号が来るということが分かっていたので、安否もそう

だが、被害状況を確認しなかった。ただ登録地を東京都にした為、東京都各地で警報が出るとそのたびに確認が着てしまっていた。今後は東京都のどの地域まで絞って登録するのでこのような事はない。災害については、自分や家族の命を第一優先で対応して欲しい。」

組合「組合アンケートでも裁量労働手当を戻してくれという要求があるが開発手当などで支給検討しないのか。」

会社「それについてはこの2年間をかけて、昇格等、生産性の高い人には対応してきた。」

組合「裁量労働手当分の減る分、残業でカバーする人が増えて、実際に残業も増えたのではないか。」

会社「フレックス導入時は確かに増えた。現在は微減してきている。」

次回団交 11月7日(木)

介護保険

「必要になってもつかえない」

「使えない」の 加速は許されない

厚生労働省の審議会が、来年の通常国会に提出予定の介護保険法改定案の策定に向けた議論を本格化させています。

要介護1、2の人の生活援助を保険給付の対象から外すことや、利用料2、3割負担の対象者を広げることなどを検討します。

介護保険では「必要になっても使えない」「費用負担ができず利用を控える」ことなどが、今も大きな問題になっています。

厚労省が検討する方向は、利用者・家族に一層の苦難を強いるものです。

安心して利用できる制度を求める国民の声に逆らい、暮らしを深刻化させる介護保険法の改悪はやめるべきです。

制度の根幹に関わる問題

介護保険の制度改定の議論は厚労省の社会保険審議会（厚労相の諮問機関）の介護保険部会で行われています。

厚労省が同部会に示した検討項目は、介護保険サービス使用を抑え込む仕組みづくりや、利用者が負担する費用をさらに重くする内容が数多く盛り込まれました。

その一つが、要介護1、2の「軽度者」が利用する生活援助サービスを、介護保険の給付対

象から除外するというものです。

「軽度者」をめぐっては、すでに要支援1、2の訪問・通所介護が2014年の介護保険法改悪によって保険給付から外され、市町村の裁量で行われる「総合事業」に移されました。

しかし「総合事業」は自治体によってサービス内容の担い手の確保など格差があり、すべての利用者と同じサービス保障されるかどうか、大きな不安を残しているのが実態です。

そのもとで、新たに要介護1、2まで保険給付の対象から外すというのは、きわめて乱暴です。

「軽度者」「小さなリスク」であり「自立で対応する」事を求めますが、実態を見ない主張です。

認知症などは早期に対応してこそ進行を抑えることがか

のうです。早い時点で、公的介護の仕組みに基づく支援が欠かせません。

「軽度者」対応を軽視するやり方は、介護状態を悪化させる高齢者を増大させ、かえって給費を誇張させる結果にしかなりません。

2割以上の負担が「原則化」されるようなことになれば、経済的負担に耐えられない人が介護サービスからしめだされます。介護保険の改悪を許さず、暮らしを支える社会保障への拡充が急務です。



4こ未漫画

川崎よしき





ショートショート

大雨

仙洞田一彦

チヨさんは炬燵に足を入れ、坐椅子の背もたれに身体を預けてテレビを見ていた。見ている時間が多いのか、うとうとして時間の方が多いのか、どちらが多いのかは微妙だ。

つい先ごろは暑かったのに、急に気温が下がり、足の冷えが強くなった。年中出っっぱなしで、夏の間は布団を外してテーブルがわりに使っていたが、押入から布団を引っ張り出して炬燵としても使えるようにした。足が温まると眠くなる。夕飯の準備をしなればと思っているが、身体が休めと言っている。

外は雨が降っているはずだ。というのは耳鳴りか、雨の音か、どちらかよく分からない。さつき立って部屋を出て障子を開けたとき、ガラス越しに見えたのは、しとしと降る雨の様子だった。耳鳴りがもし雨の音だとすれば、かなりの大雨だ。でもチヨさんには、さつき見た、しとしと雨の様子そのままだった。

この六畳は一方は襖、ガラス戸のある方は、廊下を隔てて障子が入っている。外が見えない。時間にしては障子が暗いようだが、テレビ画面が大きいので、その明るさがあつて、実際に暗いかどうかも良くは分からない。テレビの画面は、川の流れが堤防を越えて、あたり一帯が水に浸かっている様子を映

し出している。台風が去ったのもつかの間、また台風が来た。テレビ画面が変わり、土

色の波が立ち、渦を巻いている様子になった。画面の上半分には家が映っている。よく見ると一階部分は土色の波の下ようだ。流れの中に車の屋根だけ見えるが、浮かんで流されているようにも見える。また画面が変わり、残っている壁でかろうじて家と分かる

ようなところを映していた。突風か竜巻らしかった。自動車もひっくり返ったり、横倒しになったりしている。チヨさんは見ているうちに心細くなって、立ち上がった。障子を開けて、ガラス戸越しに外を見ると、しとしと雨ではない。大きい雨粒が、ガラス戸を打っていた。庭の木も

大きく揺れている。庭にたたきつける雨は泥しぶきを上げている。

チヨさんは廊下を玄関の方に歩き、雨戸を閉めてもらおうと思ひ、息子の部屋を開けた。チヨさんがいる部屋より大きい部屋だが、きれいに片付いていて、息子の姿はない。息子は独身で、五十に手が届く年になっていた。台所に行つたが、人のいた気配もない。

チヨさんは物をつかむ力も、雨戸を引き出す力も衰えていて、しばらく雨戸の開け閉めは息子まかせになっていた。しかし、雨脚の強まっていたま、待っていてられない。ガラス戸を開けて、雨戸を引き出した。雨は廊下を容赦なく濡らした。チヨさんは足を滑らさないように踏ん張って雨戸を閉めた。

台所に行つて乾いた雑巾を持ってきて廊下を拭いた。ほつとしたチヨさんは部屋に戻つた。

息子は川の様子でも見に行つたのだろうかと思つた。部屋がいつそう暗くなつたので、蛍光灯からぶらさがっているひもを引つ張つて明かりを点けた。

夫はもう何年も前に亡くなつていた。息子の姉にあたる娘がいるが、遠くに嫁いでいて子供もいるし、義父母の介護があつて、実母まで手が回らない様子だ。娘からの電話は愚痴の嵐だつた。言われてみると、自分が当たられていくように思えてくる。それもあつて娘には電話しないようにしている。

いるか、いないか分からない

いほど何にもしゃべらないと言つていい無口な息子だが、そばにいればそれで満足だ。

チヨさんは、はつと目が覚めた感じがした。また居眠りに落ちたのかと思つた。雨戸を閉めたのは夢の中のような気がした。

チヨさんは手を畳について立ち上がり、障子を開けた。雨戸は閉まつていた。閉まつているのを見ると、息子が雨戸を閉めたのかと思つたが、はつきりしなかつた。チヨさんはまた炬燵に戻つた。

テレビ画面に目をやると、よく見た風景が映つていた。空からの風景だから見たことはないが、自分の家の屋根だということはずぐ分かる。隣の家も、その隣も軒先まで水に浸かっている。画面の右上

には「××年の水害」という文字があつた。

チヨさんはとたんに胸が苦しくなつた。片手で胸を押さえ、片手をリモコンに伸ばして、テレビを消した。

玄関をたたき音がした。胸に苦しさを抱えたまま、部屋を出て玄関に向かつた。

開けると、合羽を着た町会の役員がいた。

「チヨさん、避難。避難。寒いからあたたかくして。隣近所回つたら、すぐまた迎えに来るから。一緒に避難しましょう。急いでね」

「はい、はい」

チヨさんは言われるままに急いだ。こういう時に持ち出すものは準備してあつた。それは前の水害の後、町会でも言われ、自分でも必要だと思

つたので袋にひとまとめにしておいた。袋を開けてのぞきこみ、中のものをざつと確認した。役員が、あたたかくして言っていたから、息子の部屋の鴨居に掛けてあつた黒いダウンのコートを取つて羽織つた。

その時、息子は何を着て出て行つたのだろうかと思つた。

また玄関の戸がたたかれた。チヨさんは考えを中断し、玄関に出た。

「チヨさん、行きましょう」

「あの、息子はどこに」

「向こうで待っていますよ」

「そうですか、どうも」

答えたもののチヨさんは、この人に息子のことを聞くと、いつも「向こうで待っていますよ」としか言わない。ちよつと不満に思つた。

自然災害

すいと言われています。

最近、台風や大雨が続いています。大型で強い台風19号では、東海、関東甲信越、東北の広い地域で記録的大雨となり、多くの河川が氾濫し、甚大な被害をもたらしました。

テレビやラジオから繰り返された「直ちに命を守る行動をしてください」。みなさんはどんな思いで聞きましたか。どうしたらいいのかわからない。危険が迫るなか避難所に行くか自宅にとどまるか葛藤もあつたのではないのでしょうか。

日本は、位置、地形、地質、気象などの自然的条件から、台風、豪雨、豪雪、洪水、土砂災害、地震、津波、火山噴火などによる災害が発生しや

さらに日本の地形は、傾斜

が急で険しいゆえに河川は著しく急勾配で、ひとたび大雨に見舞われると急激に河川流量が増加し、洪水などによる災害が起こりやすいです。

最近の台風は大型化しています。災害も従来と異なり、防災や被災者支援の仕組みもこれまでの枠を超えた見直しが必要です。

大きな災害が続くいま、普段から飲料水や保存の効く食料などを備蓄しておきましょう。台風19号の前日には、近くのスーパーやコンビニで水やカップ麺などが売り切れていました。

早めの備えをしつかりと進めることが大切です。

労働組合に

入りませんか！

職場でいじめ（パワハラ）をうけている・自由に休みがとれない・残業代が支払われない・突然会社から解雇と言われた・賃金が上がらないなど、職場での悩みはありませんか。そんなときは一人で悩まずに、私たち労働組合にご相談ください。

私たちJMITU（日本金属製造情報通信労働組合）は、全国組織の労働組合です。正社員でなくても、パートやアルバイト、派遣社員の方でも加入できる組合です。働きやすい職場をつくるには労働組合が必要です。ぜひ職場に労働組合を作りましょう！

労働相談、ご意見、ご質問は、下記にお寄せください。

JMITU 本部 TEL 03-5961-5601 : FAX 03-5961-5603

ホームページ <http://www.jmiu.com/>

JMITU 大田地域支部 TEL 03-3734-3502 : FAX 03-3734-3534